

漢には之によりて啓發せらるべき智識がない、従がつて此れに關する言議は一切余の避くべき筈である、たゞ書中のウイグル語の經典の翻譯については多少考へがないでもないから、此の點について少しく思ふ處を述べて本書に對する敬意を表し、かねて寄贈の厚志に對へたいと思ふ。

橘君が齎らしたウイグル語の經典の斷片は大小とりませ實に數百の多きに上つて居る、今此の中で觀無量壽經の一片表裏五十二行が此の書中に收められてある、余は先づ我が國の學界にウイグル語の翻譯が初めて提供せられたことを祝し、同時に此の研究を公けにせらるゝ迄の譯者の苦心に對して無限の同情を寄せるのである、凡例にも見えて居る通り歐羅巴の諸國には此の葬られたる國語に堪能な人もある様であるが、これとてまだ充分とはいへなからう、吾々初學者にとつては單語や文法などに解りかねるものゝあるのは勿論として、第一此の千年以上の古寫本をつきつけられると先づ其の一々の文字を読み別る丈けが既に大した辛苦である。自己の國語國字でも、一旦手書となるとその讀解は容易の事業ではないのだから、吾々がかゝる異様な文字を読む場合には、假令それが謹嚴な書體であるにしても尙ほ且つ解らなかつたり誤讀したりするのは止むを得ない譯で歐洲の學者の間にもかゝる例は決して少くない、そうして其の上に單語の解釋の出来ないもの文法上の關係の曉り切れない文句などに出喰はすと、染ミ／＼此の研究の困難を感じるのである、譯者はもとより今日のトルコ語の素養はあるし、ウイグル文字の讀み分けについても犀利な眼のあることゝ思ふけれども、尙ほ此の研究に就ては此等の點に於て多少とも經驗あるものゝ外は解し得ぬ辛勞を重ねられたことに違ひない、卷頭の寫眞版について見ると文字は甚だ正確即ち楷書とでも云ひ得る體のものであるが、それでも紛らはしい所はいくらもある、余は先づ此の寫眞とトランスクリプション